

MGF は、☑神第一主義、☑キリスト中心主義、☑聖霊主導主義の教会

礼拝黙想 Meditating on Worship

「私たちの信仰の先祖たちも弱い人々でしたが、彼らは主の存在とその力に頼ったので、偉大なことを行うことができました。」

(ハドソン・テラー)

▲「秋分の日」は、国民の祝日に関する法律によれば、「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ。」ことを趣旨としている。

祖先崇拝と先祖供養

日本の死者儀礼や宗教感覚が複雑で不鮮明なのは、祖先崇拝と先祖供養の両要素が入り交っているからである。祖先崇拝は、祖先の霊が家と家の構成員を守り、特別の超自然的影響力を及ぼすという信仰に基づき、祖先の霊(祖霊)を「神」として崇拝し、祭祀を行なうものである。その意味で、祖先崇拝の形式は「祖先祭祀」という形態をとる。それに対して、先祖供養は、苦しみの中にある先祖の霊を慰め、その冥福を期するものである。つまり、前者は、祖先が子孫を守ってくれるものであるのに対して、後者は、子孫が先祖を供養するものである。前者において、子孫は祖先から利益を受ける立場であるのに対して、後者では、子孫は先祖のために義務を負い、義務の履行を強いられる立場である。明らかに、両形式は、相互に相容れず、まったく矛盾する正反対のものである。しかしながら、それは、あくまでも、言葉の上での問題に過ぎないのであって、一般的な日本人の意識の上では、実質的に矛盾するものとはなっていないのではないと思われる。でなければ、とても、長年にわたって継続されるものとは思われないからである。現実には、仏教式の葬儀に臨んでも、人々がそこで礼拝しているのは位牌や写真(遺影)であって、仏でもなければ、仏像や本尊でもない。仮に、仏像や本尊があったとしても、それらは背後に置かれて、衆人に分からなくされており、大きく中心に置かれているのは遺影などである。そ

もそも、葬儀でしつらえられるものは「祭壇」と呼ばれており、祭祀を行う施設ということの意味している。仏壇も、「仏壇」とは言うものの、純粋に「仏」を安置し、「仏」を礼拝するための設備とは言い難い。さすがに、本尊は安置されているものの、位牌が仏壇の中核であり、礼拝者も「仏を拝む」という意識はなく、「先祖を拝む」ものと考えている。一般に、「仏さんを拝む」と言う場合の「仏さん」とは、本来の仏のことでなく、先祖のことを意味している。そもそも、位牌は、死者の霊の宿るものであり、死者そのものと意識されており、仏教とは異質である。その点は、墳墓となると、一層濃厚で、明らかに先祖が礼拝・祭祀の対象となっている。死ねば、直ちに「仏」になるとされ、戒名を与えられるのであるから、もはや、供養の必要はない。「供養」「法要」と称して、線香を供え、読経するのは、先祖に対する感謝の表現であると認識され、子孫の繁栄を守護を祈るための方式であると思われる。つまり、言葉の上では「先祖供養」ということが語られてはいるが、実際には、もっぱら「祖先祭祀」が行われているのである。仏教用語で「彼岸」とは、目指すべき理想の境地であり、「悟りの世界」「仏界」を意味するが、日本社会では、「彼岸」とは、「先祖参りをする日」、つまり「祖先祭祀の日」とされている。国民の祝日に関する法律にも、「秋分の日」は「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」日と規定されている(2条)。時に、「うやまう」とは、単に尊敬する意味であると説明されたりするが、生きている尊属や年長者に対してならまだしも、死んだ祖先を尊敬するということは、祖先崇拝以外の何物でもない。「死者を偲ぶ」ということも同様である。明らかに、法律による祖先崇拝・祖先祭祀の公認であり、

推進であるのみならず、祖先崇拝・祖先祭祀の強制でもある。キリスト者として容認しえない点である。今日、キリスト教界にも、祖先祭祀は祖霊に敬意を示すのであって偶像礼拝ではないとか、祖霊はキリスト教の神とは異なるから偶像礼拝ではないとし、さらには、明治天皇を祀る明治神宮や戦没戦士らを祀る靖国神社を拝むのも偶像礼拝ではないなどと主張する者がいる。なるほど、祖先祭祀は、キリスト教の神礼拝の姿勢とは根本的に異なるものの、キリスト教の教えと両立しえないものであることも明らかであろう。仮に、神の関知しえない祖霊が存するならば、神は全能でも、全知でもなくなるし、祖霊が神の支配下で働いているとするならば、神を信ぜず、キリストを信じなかった者が、死後、神の働き人になるという矛盾をはらむことになる。「お国のために死んでくれた兵隊さん」の行為に感謝するということと、その人(死者)を「英霊」として祀ることとは、まったく別の次元の問題であることを認識しなければならない。

以上、『親族にかかわる法と祖先崇拝』(櫻井園郎)より

キリスト教は先祖を粗末にする宗教だ、日本人には合わない。

日本人にとって先祖供養が宗教そのものになっているようですが、ここは冷静に考えてみましょう。

聖書では、族長アブラハム以来、先祖を大切に扱い、墓に葬ることも大切にしました。出エジプトの際、モーセは先祖ヨセフの遺骸を携えて出ました。ですから、本来、キリスト教徒は先祖や墓を粗末にすることはありません。

しかし、そのことと仏教的習慣に従って

合掌や焼香をすることとは別です。それらは、一種の礼拝行為と考えますから、主(神)の民であり、十戒その他の教えを持つキリスト教徒にはできないことです。

けれども、キリスト教徒には「父母を敬え」との十戒の第五戒があって、親孝行を命じられていますから、孝養を尽くし、親や祖父母を親切に看取り、死に際しては感慨深い葬儀をします。[キリスト信仰を捨てなさいとか、偶像を拝みなさいといった不信仰なことではできませんが。]死後も、節々に記念会をして、生前を偲び、ゆかりの者が集まって思い出の時を過ごします。また、墓掃除にも出掛け、墓前を花で飾り、記念の時を持ち、残された家族の守り・祝福を神様に祈ります。そういうやり方で、キリスト者は先祖に向き合い、先祖を大切にします。決して、一般の方々々に劣るものではありません。

Christian Today (2015/12/20)

Q: 私が救われている場合、先祖は救われるのでしょうか。日本人にとって先祖はとても大切です。どう解決したら良いのでしょうか。ご教授ください。

A: 確かにこれは、切実な問題です。いつものようにいつものように3つ申し上げます。

1. 私が救われているという事実によって、他の人が救われることはありません。

(1) ひとりひとりが、自らの救いを得る必要があります。

(2) 救われる方法は、信仰と恵みによります。

(3) 福音の三要素が信仰の内容です。

2. すでに死んだ人に関しては、神にお任せすべきです。

(1) 人は、自分に与えられている光の量によって裁かれます。

(2) その光に応答して真剣に神を求めらるなら、神はその人を救いに導かれます。

(3) 神は愛と義の原則で対応されますので、私たちもその判断に満足することでしょう。

3. 今の感覚を基に、永遠の世界を判断してはなりません。

(1) 自分は天国に行ったとしても、地獄で苦しんでいる先祖がいるのに、そこで生活を楽しめるはずがないと考えるのは、早計です。

(2) 神は私たちの涙をぬぐってくださいます。

(3) 私たちの判断は神の判断と完全に一致するようになります。

(4) 先祖の記憶さえも、神の御手に握られています。

先祖がどうなっているかは、神に委ねるのが最善です。

聖書入門.com

質問) 聖書には先祖崇拝についてなんと書いてありますか？

答え) 先祖崇拝には死んだ親戚などの霊に対して祈りや供え物を捧げる行動等あり、先祖崇拝は世界中多くの文化で行われてきました。死者の魂が地上で存在し続け、生きている親戚などの命運や将来に影響を与えるという考えのゆえに人々は死者に祈りや供え物を捧げるのです。また先祖の魂は生きている人々と創造者との架け橋になっているという考えもあります。

死だけが人物が先祖崇拝を受ける条件ではありません。その人物の人生が道徳的であり社会貢献をした立場のあるものである必要もあります。死者は後の世代を祝福したり呪ったりすることで影響を与える、神の立場を持っているということになります。ですから、彼らに祈り、供え物を捧げることは彼らの機嫌をとるという意味があるのです。

先祖崇拝が紀元前7世紀の中東、エリコ周辺で行われていたという証拠が見つかっています。先祖崇拝はまた古代ギリシャやローマ文化でも行われていたようです。先祖崇拝は中国やアフリカ、日本やアメリカ先住民によっても行われてきました。

それでは、聖書には先祖崇拝についてなんと書いてあるのでしょうか？まず、聖書には死者のたましいが天国か地獄に生き、地上に留まらないことが書いてあります(ルカ 16:20-31; 2 コリント 5:6-10; ヘブル 9:27; 黙示録 20:11-15)。ですから、死者のたましいが地上に留まるという信仰は聖書の教えとは違うものです。

次に、死者が神と人類との仲介者となるという教えは聖書のどこにも書いてありません。しかしイエスキリストが神と人との仲介者であると書いてあります。イエスは人として生まれ、罪のない人生を送り、私たちの罪のために十字架につけられ、墓に葬られ、神によって復活させられ、多くの人によって目撃され、天に昇り、父なる神の右に座しておられ、ご自分を信じている者たちのためにとりなしをしておられます(使徒 26:23; ローマ 1:2-5; ヘブル 4:15; 1 ペテロ 1:3-4)。神と人との仲介者は一人だけであり、それは神の独り子のイエスキリストです(1 テモテ 2:5-6; ヘブル 8:6, 9:15, 12:24)。キリストのみがその役目を果たすことができるのです。

出エジプト 20:3-6 で私たちは主以外を神として拝んではならないと命じられています。それに加え、死者と交信がと言われていた霊媒師や魔術師などは固く禁じられていました(出エジプト 22:18; レビ記 19:32, 20:6, 27; 申命記 18:10-11; 1 サムエル 28:3; エレミヤ 27:9-10)。

サタンは常に神にとって変わろうとし続けてきましたし、主以外の神々や先祖さえもを礼拝するようにと仕向け、真実の神の存在から人々を遠ざけようとしてきました。先祖崇拝は間違った礼拝に対する神の警告に反し、イエスキリストのみが果たすことができる神と人との仲介者の役目を奪おうとするものであるから間違っているのです。

GotQuestions.com 日本語 

<お知らせ ANNOUNCEMENT>

★ 11月3日(日) MGF 秋の運動会

MGF はキリスト狂徒の集まるキリスト狂会

「教会 [マラナサ・グレイス・フェローシップ (略称: MGF)] はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです」(エペソ 1:23)。「あなたがた [MGF] は、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ 2:10)。